

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【浦和別所小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的に、知識・技能の定着が図れた。しかし、個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。そこで、「スタディ・サプリ」「ドリルパーク」等、個別に蓄積されたデータを効果的に活かしていく。また、次年度の目標としては、国語の主語・述語の関係の正しい理解に全体として課題があることから、「言葉の特徴や使い方に関する事項」を全学年で重点的に取り組む。R6年度の全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査で検証していく。
思考・判断・表現	R5年度の調査において、概ねよく解答できている項目であった一方で、無解答(白紙のまま)率が高い項目でもある。各教科の授業で、根拠資料を基に、自己の考えをまとめる活動を引き続き重視していく。また、根拠となる部分を引用して自分の考えを具体的に書くために、グラフ等の資料を用いる際、「誰が」「どのような視点で」「どのような単位で」などを意識的に問うなど、資料の見方についても重視していく。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度の調査において、「(教科)の勉強は好きですか」という問いに対し、肯定的な回答の割合が、いちばん低いもので69.1%、いちばん高いもので91.0%と、教科や学年によって幅が大きい項目であった。そこで、授業の中で、児童自身が考えをもつ場面を設定し、児童に合わせた支援を行った。解決に向けた姿勢を評価したりしていく。また、2年生以上の学年において、記録の蓄積や、ICTを活用した振り返りの実施をしていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	学校評価の児童アンケート「授業の内容がよく分かります」の「そう思う」の割合を75%以上にする。 さいたま市学習状況調査における授業の内容がよく分かりますかの肯定的な回答の割合を90%以上にする。	→ 授業の中で、前時までの学習の振り返りを進言し、学習内容を思い起こし、中々学習に慣れるようにする。 → 既習の内容を教室内掲示することで必要に応じて既習事項を思い出し、既習事項を生かして課題に取り組んだりできるように指導する。
思考・判断・表現	「よい授業」の4つの因子(児童生徒の活動)問題の解決に向け、友達同士で話し合う場面があるの割合を1回目のアンケートより2回目のアンケートの割合を向上させる。	→ 授業の中で、意図的に発表する場を設定する。 → 自分の考えや思いを大切に、適切な場面、人数で児童同士の話合いが行われるような取組を学校全体として考え、日々の授業で実践していく。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査の「新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思いませんか」の肯定的な回答を85%以上にする。	→ 授業の中で、自分の考えをもつ場面を設定し、児童に合わせた支援を行った。解決に向けた姿勢を評価したりすることで、児童の主体的な姿勢を引き出す工夫を行う。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度学校評価アンケート「(5)授業の内容がよく分かります」の「そう思う」の割合は、72%であった。なお前項目「概ねそう思う」を加えた肯定的な回答の割合は96%であった。また、R5年度さいたま市学習状況調査における「授業の内容がよく分かります」の肯定的な回答の割合は95.79%と、90%を上回った。	A
思考・判断・表現	今年度から「学びの指標」が導入された。「学びの指標」の項目9「(探究的な学び)友達の考えと自分の考えの、同じところと違うところを、見つけている。」の割合は、2学期末の結果の平均が3.4であった。4点満点中の平均3.4なので、比較的高い傾向にある。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査の「学びに向かう力等」(主体的対話で深い学び)に関する項目の肯定的な回答の平均は86.8%と、目標値85%を上回った。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	すべての問題で、全国平均正答率を上回っていた。しかし、国語「日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる」問題の正答率が67.4%、算数「正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」問題の正答率が49.4%と、他の領域よりやや低かった。
思考・判断・表現	すべて全国平均を上回った。しかし国語「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」記述式の無解答率が9.6%、算数「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」記述式の無解答率が3.9%と、白紙のままの率が高かった。
主体的に学習に取り組む態度	児童質問紙調査において、本校の児童は、多くの項目で全国平均を上回り、肯定的な回答をしていた。しかし「放課7/宿業の夢や目標を持っていますか」の問いに、自信をもって「持っている」と回答した児童の割合は、全国平均を下回っていた。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査は参考値扱いとなります。	
小3	R5年度調査において、どの項目も市の平均を上回っていた。一方、国語の主語と述語の正しい関係の理解に課題がある。算数では、四角形の定義及び単位の関係の理解に課題がある。教科への興味関心については、国語・算数とも肯定的な回答の割合が75%以上と高い傾向がみられた。
小4	R5年度調査において、国語「書くこと」以外、市の平均を上回っていた。国語においては、主語と述語の正しい関係の理解、中心になる語や文に着目しながら文脈に合う適切な言葉を選択することに課題がある。教科の興味関心については、国語において、肯定的な回答の割合が76%と昨年度の3年生との経年比較で上昇が見られた。
小5	R5年度調査において、どの項目も市の平均を上回っていた。一方、国語では、話すこと・聞くこと、算数では、単位数あたりの大きさを用いて、ごみ割合を比べることに課題がある。教科への興味関心については、肯定的な回答の割合が、国語83.6%、算数69.8%、社会88.1%、理科86.2%であった。
小6	R5年度調査において、どの項目も市の平均を上回っていた。一方、国語では主語と述語の正しい関係、算数では基準量と比較量に着目して合う問題を選ぶこと、数量が変わっても割合が変わらないこと、理科では顕微鏡や簡易検流計、方位磁針の正しい操作方法に課題が見られた。教科への興味関心については、国語算理の肯定的な回答の割合が78%以上と高い傾向が見られた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	→ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	→ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	→ 変更なし

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【浦和別所小学校】

⑥ 次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	次年度に向けて(3月)
思考・判断・表現	年度末評価(2月)

① 今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>国語の主語・述語の関係の正しい理解に課題がみられた。<指導上の課題>全体的として知識・技能の定着が図れているが個人差が大きく、個別に必要な支援が十分行えていない。	→ 「スタディ・サプリ」「ドリルパーク」等、個別に蓄積されたデータを効果的に活かしていく【毎単元の実施】。その際児童の学習履歴を確認し、個別に学習計画を立てる時間を設定する。【月に1度の実施】児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする。振り返りを踏まえ、児童とともに必要のある課題を設定する【毎時間設定】。
思考・判断・表現	<学習上の課題>概ねよく解答できている項目であった一方で、無解答(白紙のまま)率が高い。<指導上の課題>児童が自己表現する過程を教師が十分に評価できていない。	→ 根拠となる部分を引用して自分の考えを具体的に書くために、グラフ等の資料を用いる際、「誰が」「どのような視点で」「どのような単位で」などを意識的に問う。【関係単元】児童が作品・レポートに取り組み、評価の観点を示した上で評価する。【毎回実施】

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 授業改善策の達成状況	
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実感把握)
思考・判断・表現	職員会議・校内研修等

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	②調査問題の解説 ③振り返りの終了報告
思考・判断・表現	結果提供(7月)

- 調査結果分析(7~8月)
- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	
思考・判断・表現	

③ 中間期報告			
	評価(※)	授業改善策の達成状況	中間期見直し
知識・技能			授業改善策【評価方法】
思考・判断・表現			

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実感把握)